

## マレーシア教育研修旅行現地調査報告書

北海道札幌啓北商業高等学校 教諭 稲津 正巳

### 1. はじめに

本校は昭和 16 年の札幌市立商業学校に始まり、現在全日制 6 間口の札幌市立商業高校です。平成 17 年度に多様な生徒や社会のニーズに対応して商業科から未来商学科に学科転換し、1 年生で商業科の基礎科目を学習した後に、2 年生で興味関心と適性に応じて 3 コース（会計・情報・国際）から選択し、専門を深化させる特色ある商業教育を展開しています。卒業後の進路は、進学者と就職者（公務員を含む）の割合が 2 対 1 で推移しています。

本校は伝統ある商業高校として、広く産業界に有為な人材を輩出してきました。さらに未来に向けた社会構造の変化に対応するため、次年度入学生より 2 年生の全コースで経済科目を必修とするなどのカリキュラム整備を行ったところですが、さらに平成 29 年度文部科学省の S P H（スーパープロフェッショナルハイスクール）指定に向け課題の解決にも取り組んでおり、この中で国際化の対応をより充実発展させるため、語学研修はもとより海外職業高校との交流や姉妹校締結、海外教育研修旅行の導入等を検討しています。

今回、平成 28 年 7 月 30 日から 8 月 3 日まで現地調査の機会を得ましたので、マレーシア教育研修旅行の有用性と実施可能な研修プログラムの内容について、以下に報告させていただきます。

### 2. 調査内容

#### (1) 留学

①マラヤ大学 1949 年にマレーシア初の国立大学として設立され、質の高い教育を目指し発展しています。QS 世界ランキングで 146 位（北海道大学 139 位 早稲田大学 212 位）にランクされるなど、マレーシア国内で一番優秀な大学です。英語、マレー語、中国語で講義を受講することができます。図書館（職員 150 名・蔵書数 100 万冊以上）と美術館を視察させていただきましたが、学生の学習環境は十分に整備されていました。



大学から概要説明



閲覧スペース



デジタル対応



時価数億円の展示も

②マレーシア日本国際工科院（MJIT） 2011 年 9 月、国際工科大学の設置提案からマレーシア工科大学（UTM）内に、資材調達は円借款による日本型の工学系教育を行う大学として設立されました。

大学院に重点を置いた学術機関で、校舎の新設費用と本邦派遣教員分の給与はマレーシア政府が負担しています。外務省を事務局として日本の 23 大学が教員を含め支援をしています。マレーシアでの学位を取得することができます。



実験環境

## (2) 語学留学

英語学校協会（ENGLISH MALAYSIA）と懇談できました。クアラルンプールへの語学留学の場合、ショートステイ、ロングステイともに本人の習熟度（入門・初級・中級・上級）や学習目的（ビジネス英語・発音矯正・TOEFL・IELTS）、学習時間（午前・午後・夜間）を組み合わせることで多様な学習形態が可能なカリキュラムが用意されています。多言語履修も可能で、英語・マレー語をはじめフランス語・ドイツ語・日本語・中国語・韓国語・スペイン語・イタリア語と9カ国語に対応しており、日本人教師がいるため日本語での対応も可能です。

授業料は日本の語学学校と比較して安価であり、住まいもホテル・サービスアパート・ルームシェアから選択可能で、安価（物価が日本の約1/3）な滞在が可能だとのことでした。



学習環境と価格優位



英語指導法について

## (3) ホームステイ・プログラム体験

クアラルンプール近郊、東ジャワ州のパチタン村でホームステイを視察しました。このプログラムであるホームステイ・パチタンは、マレーシア観光・文化省より2014/2015年度最優秀国内ホームステイ賞を受賞するなど、体験と学びが詰まったマレーの伝統的な体験プログラムです。今回の視察で体験学習として用意されたのは、新郎側披露宴参列、養蜂見学、パームヤシ・ゴム採取体験、バティック絵付け体験（記念品としてお土産）、民族衣装試着（写真撮影）、レクリエーションとして、コンカ（伝統的な数学的遊び）、民族楽器体験でした。マレーシアの農村の暮らしと伝統的文化を十分に体験できる環境が整備され、宿泊場所の民家も二つ星ホテル以上のシャワー付き部屋を連想できるものでした。郊外ではありますが、医療体制についても10分以内に24時間対応可能な医院があり、緊急時の対応も安心して滞在が可能とのことでした。



披露宴参列



ランブータン



ココナツ



絵付け



ゴムの採取



民族衣装試着



コンカ（数的ゲーム）



民族楽器演奏



宿泊部屋と付属したユーティリティ設備



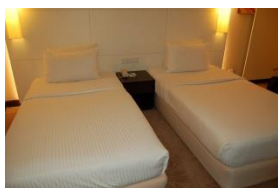
昼食（マレー料理）



#### (4) 宿泊施設（ホテル）

五つ星ホテルのセリパシフィックホテルクアラルンプールとルネッサンスクアラルンプールホテルを利用させていただきました。両ホテルとも日本のホテルと比較すると、かなり格安に感じます。団体旅行においても日本のホテルと同等の対応が可能であり、かつ日本からの団体予約時においては優先した受け入れが可能とのことでした。食事はビュッフェ形式でアジア料理や多国籍料理に対応しており、生徒が食事で困ることはないと思われま

①セリパシフィックホテルクアラルンプール 特長として、LRTのPWTC駅に近く、徒歩で道路2階のアーケードを通り安全に移動が可能です。また、向かいにはサンウェイ・プトラ・モールがあり、生徒を自由行動で買い物させることも可能です。客室では電圧が対応する電子機器であれば、変換アダプターがなくても一台分は使用可能でした。



ツイン客室



朝食会場



ショッピングモール



駅へ続くアーケード

②ルネッサンスクアラルンプールホテル 特長として、LRTのブキッ・ナナス駅に近く、徒歩で移動が可能です。団体用バスの発着やホテルの出入りについては一般客用とは別に対応可能な構造となっています。また、大団体に連結可能な400名収容のホールを2室持ち、また小団体に200名以下でも対応可能なホールを1室持ちます。このため、団体での使い勝手は非常に良いと思います。また、大規模な大屋外プールおよび100名前後は収容できるフィットネスクラブ等の施設設備が充実しており、運動部員の筋力維持トレーニングが可能です。こちらのホテルでは変換アダプターがなくても一台分は使用可能な他、さらに、変換アダプターの一人一台無料貸し出しが可能です。



ツイン客室



朝食会場



小団体用



大団体用



エントランスホール



大規模屋外プール



フィットネスクラブ



フィットネスクラブ

#### (5) クアラルンプール市内見学

・新王宮 ・国家記念碑 ・国立モスク ・KLシティギャラリー ・バティック店  
・チョコレート工場 ・ペトロナスツインタワーの夜景などを視察しましたが、いずれの施設も生徒が文化を学び景観を觀賞するには十分な感動と満足を得られると思います。また、市内を散策する機会が得られれば、多民族国家としての文化を感じることができます。



新王宮



国家記念碑



国立モスク



I LOVE KL の看板



KL シティギャラリー



独立広場



バティック店



ペトロナス・ツイン・タワー

### 3. マレーシアの教育研修旅行現地視察のまとめ

①マレーシアの治安と感染症について 当初、周囲からトルコのテロが気かけられました。また、デング出血熱やジカ熱報道等から感染症が危惧されました。このイメージの先行は、北海道ではマレーシアの情報に接する機会が十分ではなかったためなのかもしれません。実際に空港の入国検疫は日本同様の対応がされていました。また、ホテルやホームステイ先での緊急時の医療体制は、日本人看護師や日本の医学部出身医師の配置もあり、十分安心できるものでした。治安においても、ホテル周辺にて早朝や深夜の一人歩きを試してみましたが、不安になるようなことはみられませんでした。

②マレーシアでの滞在について 他民族国家であるマレーシアは、同時に多文化国家でもあります。街中にさまざまな民族文化、宗教文化、食文化等があふれています。さらに日本人や日本文化をも調和しており、様々な視点からの文化を学べる魅力を持っています。

③マレーシアへの教育研修旅行の意義について 日本国大使館一等書記官（文部科学省 出向）の解説によると、マレーシアの高校にとって日本の高校との英語での交流はマレーシア側にメリットが少ないそうです。理由は日本の高校生の英語レベルは、マレーシアの小学生レベルだからだそうです。しかし、マレーシア人との英語でのコミュニケーションは、相手のレベルに合わせた会話が可能な国民性を感じ安心できました。その点で英会話ではややシャイな道産子高校生の度胸試しには、もってこいの国ではないかと思われれます。

今後の世界経済の状況から、アジア地域が発展の中心となる期待が高まっています。その視点で将来性を考えると、欧米に留学する以上にアジアでの留学の価値が高まっています。マレーシアは、その評価の中心に位置する存在です。また、成長・発展する地域は活気に満ちあふれ、滞在するだけで良い刺激を受けることができます。これを高校生のうちに経験できれば、多様なものの見方や価値観をし、良い変化を受けることができます。

前マハティール首相時代の Look East 政策により、マレーシア人の約 86%が親日で日本から多くを学ぶ機運を高めました。しかし、現在は就職時のことを考え日本の学位よりも英国の学位の方が好まれつつあるそうです。このことから、日本企業の人事体系や給与体系がグローバル化を求められています。以上を学ぶべく、未来の北海道や札幌市を担う高校生が、将来のビジネスパートナーとなるであろうマレーシア人との共有環境を体験するのに十分な理由であると結論し、報告させていただきます。

今回のマレーシア教育研修旅行現地調査に派遣していただき、私自身多くを学ばせていただきました。今回の調査に関わったすべての方々に感謝申し上げます。